

令和8年6月8日（月）令和8年度第1回食の安全推進委員会

食の安全・安心推進事業の 効果的な進め方について （第2報）

埼玉県 保健医療部 食品安全課

★食の安全・安心推進事業

県民を中心とした食の安全・安心の確保

❖ 営業施設や食品等事業者への許認可、監視指導については別事業で実施

R7資料
再掲

目指す姿

リスクコミュニケーションの機会（＊）が
県民（特に、こども・若い世代・子育て世代）の身近な場所に
常に存在する環境を整備し、食の安全・安心を確保する

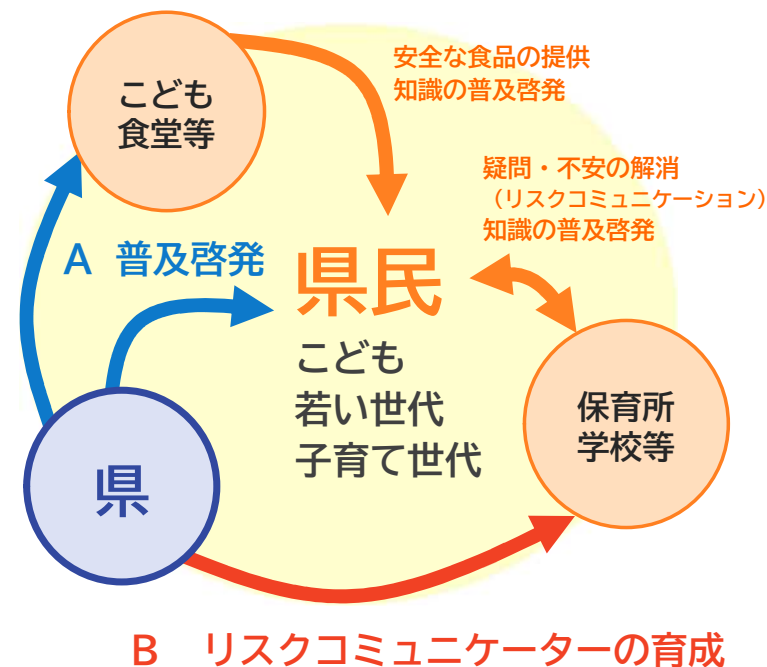
（＊）正しい情報を受け取る
不安や疑問を解消する

困っていること

当課担当職員のマンパワーのみで、
リスクコミュニケーションに参加できる機会を
県内全域に設けることは困難である



リスクコミュニケーターとして活躍できる人財を育成し
本当に必要な場所に配置することが必要だと考えている



★御意見、御提言いただきたい内容

皆さまのご意見や

他自治体・他団体で実施されているよい事例などをご存知でしたら
当日お持ち寄りいただきたく存じます。

1 情報発信の方法

- ▶ 消費者にとって「どこに、どんな時に、どのような情報」があれば情報を受け取りやすく、活用していただけるか

2 情報普及のための人財育成事業

- ▶ こども・若い世代・子育て世代の食の安全・安心を守るために、リスクコミュニケーターはどのような場所にいることが望ましいか
- ▶ どのような方にリスクコミュニケーターになっていただけると効果的か

3 官民連携・教育現場との連携

- ▶ こども・若い世代・子育て世代を対象としたリスクコミュニケーションを進めるために、民間企業や教育機関とどのように連携していけばよいか

あわせて官民連携アドバイザーとの打ち合わせを実施したところ 「相手に合わせた情報発信ができていない」ことが明らかになった

要素	現状の施策が抱える課題
誰が (発信者)	行政という時点で魅力がない 代わりとなる人材（リスクコミュニケーターとしてふさわしい人材）の選定ができていない
誰に (受信者・ターゲット)	ターゲットを明確にする
いつ (タイミング)	時期、季節、学習年齢
どこで (発信場所)	情報を受け取りやすいまたは対象が受け取りたいと思う場所の選定
なにを (内容)	要因に沿って必要な情報が違うが、正確に分析できていない
なぜ (必要性：納得、共感)	単に知識を伝えるだけでなく、背景や必要性を盛り込み、行動につながる納得や共感を得られるような伝え方ができていない
どのように (伝えかた：手段 講義、参加、協働)	伝わりやすい言葉で伝えられているか
どれだけの数 (伝達量：頻度、接点)	行政が発信する情報量は必要なタイミングで発信できているか

問題解決の方向性

～委員の皆様からの御意見と官民連携アドバイザーとの打ち合わせを通して～

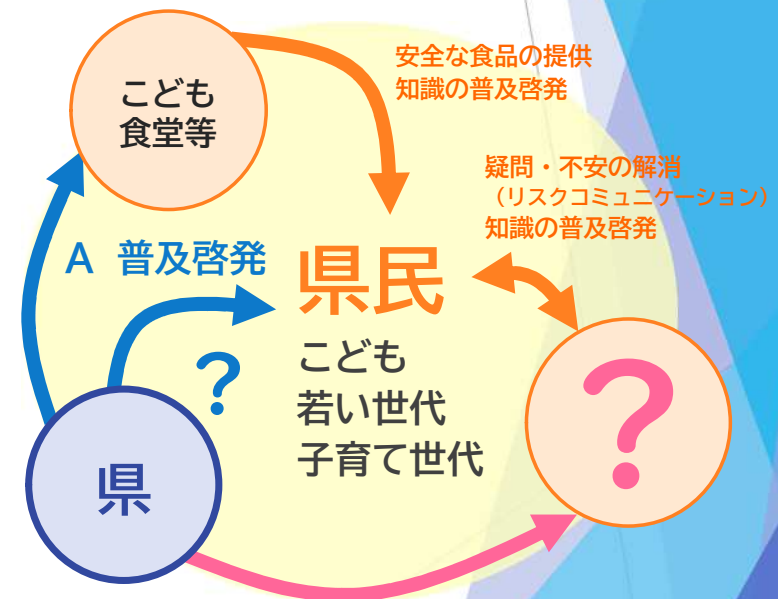
【まず行うべきこと】

- ▶ 県民のもつ常識や意識を把握する制度
- ▶ 情報を発信する体制



相手にあわせた
“受け取ってもらえる” 情報の発信

制度のイメージ (現時点での仮説)



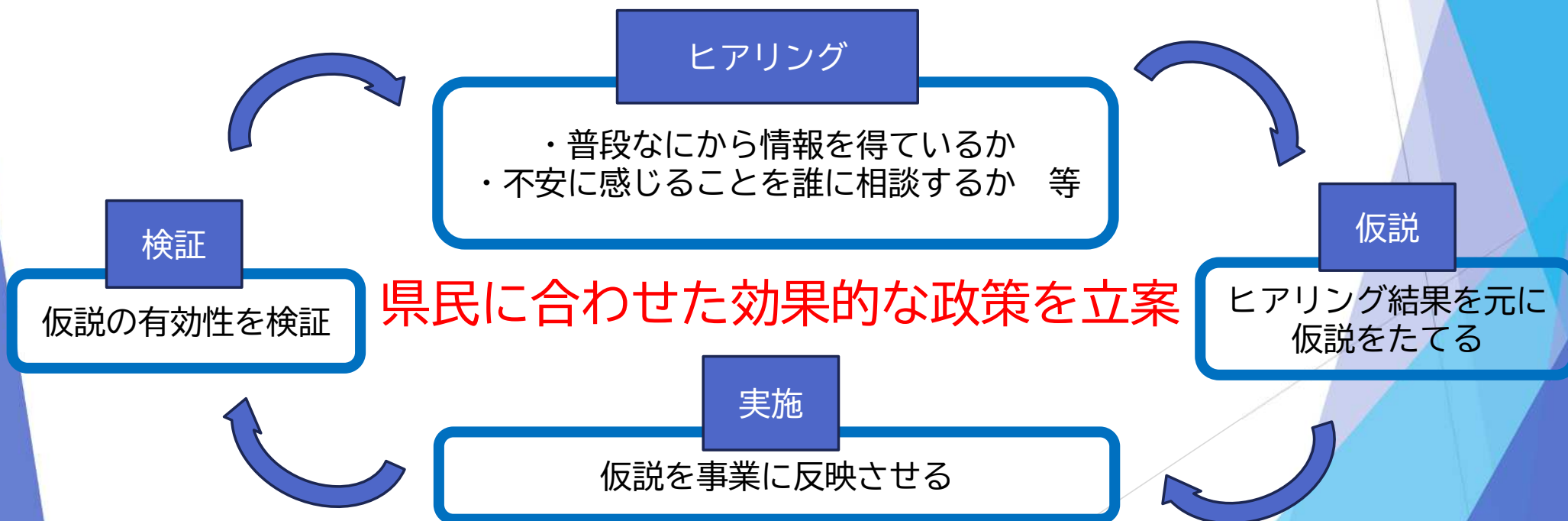
リスクコミュニケーターの育成

取り組むべきこと①

【令和7年度～令和9年度】

- ▶ 新たな制度や体制を作っていくために、仮説を検証するパッケージを展開する

※関係機関と連携し、当事者へのヒアリングを実施



取り組むべきこと②

【令和10年度以降】

- ▶ 令和8年度・令和9年度で検証したことをもとに、
新たなリスクコミュニケーション制度、リスクコミュニケーター制度を
形成して事業化する。

◎リスクコミュニケーション制度

県が県民の意見や思いをくみ取れるようなリスコミの機会の提供

◎リスクコミュニケーター制度

積極的に活動したいと思えるような心理動線や環境を整備する

【皆様からいただいた御意見・御提言とその活用①】

1 情報発信の方法

いただいた御意見、御提言 (令和6年度第2回委員会)	活用方針 (令和7年度第1回委員会)	活用の経過 (令和8年第1回委員会)
ラジオ等のメディアを活用し、積極的に情報を出していく必要がある。	・引き続き、朝情報★埼玉（ラジオ）、県政広報テレビにおいて広報を行うほか、ヒアリング結果から効果的なメディア媒体の選定を行う。	・令和7年度はラジオ（6回）、テレビ（1回）により情報を発信した。また、県SNSの活用や、県ホームページでの情報発信を充実させていく方針。
興味をもってもらえるような表現を心がけ、正しい情報であるということをきちんと伝えていかなければならない。	・庁内で「広報力底上げプロジェクト」を立ち上げた。チームで多角的な意見を出し合い、伝わりやすい言葉で情報を発信していく。また、発信する際に県や国の該当ページのアドレスを掲載するなど、根拠のある情報であることを示していく。	・「広報力底上げプロジェクト」には、各保健所から食品衛生監視員や栄養士が参加。広報のテーマ等について意見交換を行った。令和8年度も引き続き結成し、県民に興味を持ってもらえるようなテーマやデザインを検討していく。
コバトン食の安心情報を様々なところに配布したらどうか。		

広報力底上げプロジェクトの活動（抜粋）



▶ コバトン食の安心情報令和7年12月号 ～広報力底上げプロジェクトメンバーと共にテーマを検討～

ノロウイルスが流行する季節のため「手洗い」に関するテーマとした。当課でテーマ候補を検討した上で、メンバーから意見を募集した。

<テーマ候補>

- A：手洗いのタイミング
- B：手洗い後も見えない汚れに注意
- C：石けんを使った手洗いの有効性

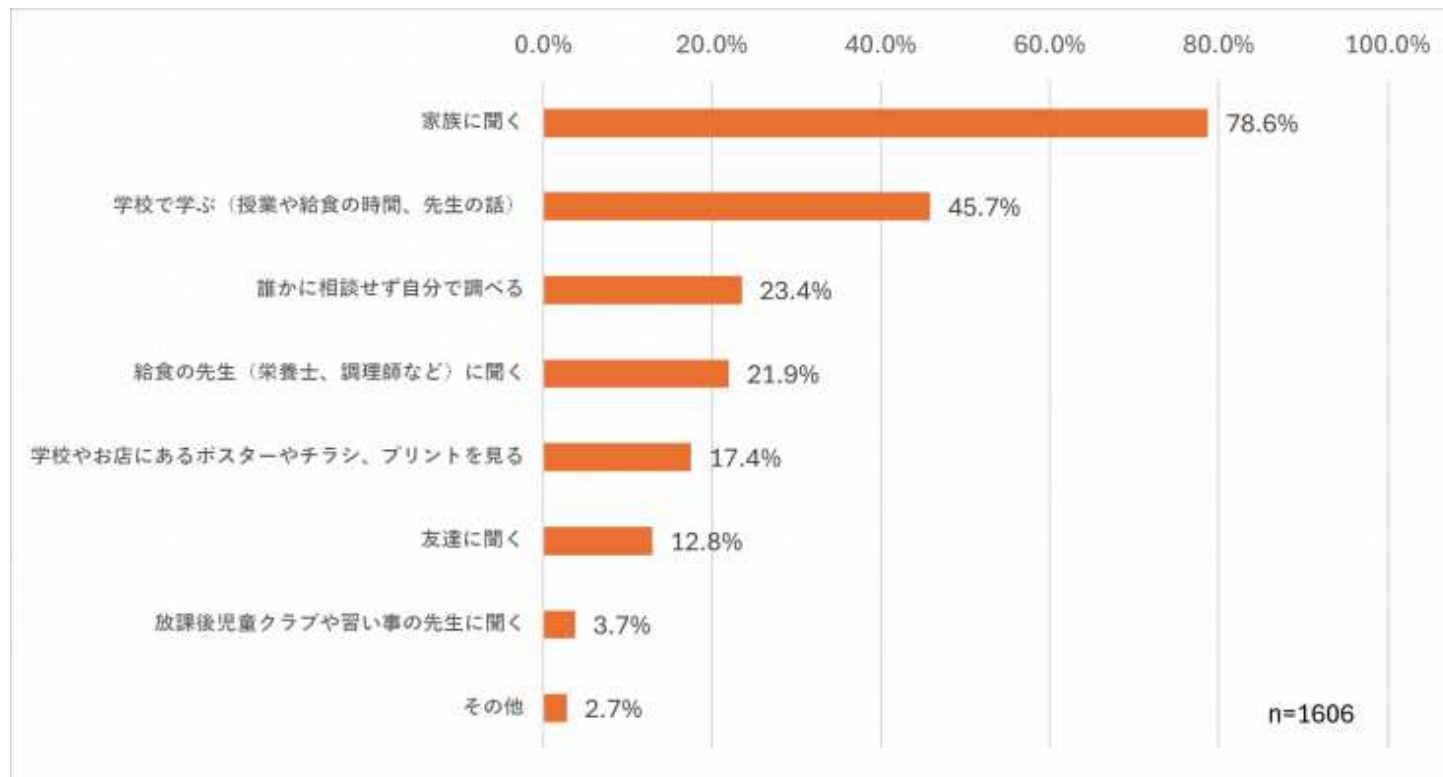
【皆様からいただいた御意見・御提言とその活用②】

2 情報普及のための人財育成事業

いただいた御意見、御提言 (令和6年度第2回委員会)	活用方針 (令和7年度第1回委員会)	活用の経過 (令和8年第1回委員会)
子育てがひと段落した世代を育成したらどうか。(例えば埼玉未来大学の講座の一部に食の安全・安心に関する内容を取り入れるなど)	・リスクコミュニケーター制度について見直しを行う。 ・ リスクコミュニケーター研修においてグループワークを取り入れ、具体的なアウトプットの方法やコミュニケーションの取り方について検討する場を設ける。	・令和7年度第2回リスクコミュニケーター研修の一部で、グループ討議(事例検討)の時間を設けた。
研修会参加者がどのようにアウトプットしているのか見えてくるとよい。	・別途 ヒアリング調査を行い、リスクコミュニケーターとしてふさわしい人材や効果的なアウトプットの方法を把握 して効果的な施策としていく。	【アンケート調査】 県の調査事業を活用し、幅広い世代に対しリスクコミュニケーターとしてふさわしい人物像(経歴、資格など)や、どういった講義を聞きたいかなどの聞き取りを実施した。
リスクコミュニケーターを育成するための土台作りが必要。	・今年度は大学生に食の安全・安心に係る啓発事業を体験してもらい、効果の検証を行うことを調整中。	また、学生向けや、子育て世代向けなどの各種講習会時に同様のアンケートを実施していく。
リスクコミュニケーター研修で伝えるべきことは、衛生に関する基礎知識ではなく、コミュニケーション技術や伝えるための言葉選び方なのでは？		
学生をリスクコミュニケーターとして人財育成したらどうか。		

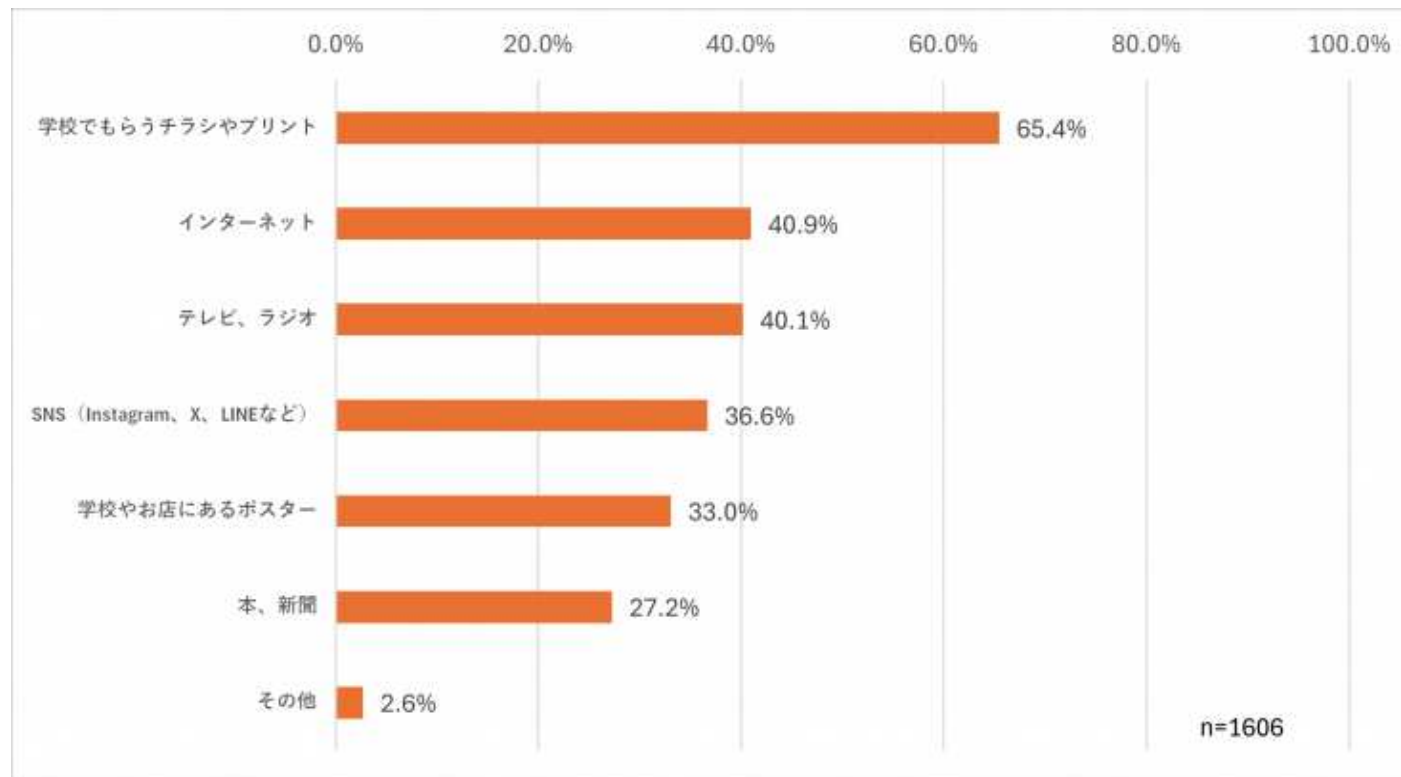
アンケート結果①（「さいたまけん★こどものこえ」から抜粋）

- ▶ 質問2
- ▶ 食べ物の安全について知りたいことや不安なことがあるとき、あなたはどうしますか。
（どうしたいですか。）（あてはまるものを全て選んでください。）



アンケート結果②（「さいたまけん★こどものこえ」から抜粋）

- ▶ 質問5
- ▶ 食べ物の安全に関する情報を多くの人に見てもらうには、どのような方法でお知らせをするのが良いと思いますか。（あてはまるものを全て選んでください。）



アンケート結果③

(令和7年12月実施インターネット調査から抜粋)

▶ 質問9

- ▶ (「食の安全に関する講習」を行う地域の人材について)
どういった経歴、技能などを持った人が適切だと思いますか。

(回答抜粋)

- ▶ 食品に関する地域活動の経験がある者
(食品衛生推進員、食品衛生指導員、食生活改善推進員 等)
- ▶ 仕事として、食品の調理又は製造に数年間従事したことがある者
- ▶ 資格・免許を持つ者 (食品衛生責任者、栄養士、調理師 等)

【皆様からいただいた御意見・御提言とその活用③】

3 官民連携・教育現場との連携

いただいた御意見、御提言 (令和6年度第2回委員会)	活用方針 (令和7年度第1回委員会)	活用の経過 (令和8年第1回委員会)
出前講座は大学等の教育機関と連携したらどうか。	・ 関係機関との連携 を進めていく方針である。	・ 「食の安全体験教室」は学校職員等と連携し、より授業の理解度を深める内容となった
コープみらいさんが県内で様々な事業を行っているため、連携したらどうか。		【コープみらい様との連携】 ・ コープみらいフェスタで当課のブースを出展 ・ リスクコミュニケーター研修への御協力（講義、コープ検査センターの見学）
教育委員会と連携し、学校給食の献立表に毎月コラムを載せてもらうのはどうか。		・ 行政間の連携も併せて強化する方針